

株主・投資家の皆様へ
平成24年7月期（第51期）

2011年8月1日▶2012年1月31日

中間報告書



包装システムのトータルプランナー

ゼネラルパッカー株式会社

証券コード：6267

株主・投資家の皆様へ

新分野と海外市場の開拓による 成長戦略を推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業への厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。
ここに、当社第51期 第2四半期累計期間（平成23年8月1日から平成24年1月31日まで）における営業状況と通期の見通しをご報告させていただきます。ご一読の上、当社事業へのさらなるご理解とともに、今後の成長にご期待くださいますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
梅森輝信



経営理念と目指すべき企業像

創業以来50年間にわたり、当社は自動包装機の開発製造・販売を通じて、産業界に貢献してまいりました。現在では、食品・化学品・医療用品等のドライ物（粉末・顆粒・固形物）を中心に、多くの分野で袋詰用包装機のNo.1シェアを獲得しています。

当社は、「創造と挑戦」を社是に掲げ、「わが社はつねに、独創的な技術を活かし、顧客の要請に応える高品質な『商品』を提供する」という経営理念に基づく価値創出の取り組みを続けています。そして、「社会・株主・顧客・取引先・従業員」のあらゆるステークホルダーとともに発展していく「包装システムのトータルプランナー」を目指しています。

企業ビジョン

「社会・株主・顧客・取引先・従業員の全てに対し、誠実に透明性の高い経営を実践し、信頼され、支援される企業」の実現



経営理念

わが社はつねに、独創的な技術を活かし、顧客の要請に応える高品質な「商品」を提供する。

当社の強み

高い技術力

人材育成

高い優位性

- ▶ 袋詰が難しいもの
- ▶ チャックのあるもの
- ▶ 美しさや品質が求められるもの

多くの分野の袋詰用包装機でNo.1シェアを獲得！



■ 当社シェア ■ 他社シェア 出所：当社推定

当社が発揮する強み・優位性

当社の成長性の源泉は、自ら築き上げてきた技術力にあります。特に、メカニカル機構技術（1つの動力源からの主動作をカムやリンク機構で連動させる仕組み）をベースにしたロータリー式自動包装機では、高い競争優位性を発揮しています。また、袋詰が難しいものの包装やチャック付袋による包装、美しく品質の高い仕上がり求められる包装において、大きな評価をいただいています。

そして、用途に応じた各種の自動包装機や周辺機器を揃えているため、合理化・省人化効果の高いトータルシステムの提案が可能であることも特長です。

こうしたものづくりの力を支えているのが人材です。目的意識を持って行動する、チャレンジ精神の旺盛なプロフェッショナルの育成に注力しています。

当上半期の営業状況と通期の見通し

この半年間を振り返りますと、最大需要先である食品業界の設備投資需要に改善の動きが見られ、アジア新興国の設備需要も引き続き拡大しました。これを受け、包装機械業界全体の平成23年度生産高は、前年度比5%増の4,000億円前後になる見通しです。

当社では、中小型案件の需要回復により給袋自動包装機の販売台数が増加し、増収となりましたが、主力機種の販売台数が想定を下回り、計画に対しては未達となりました。また、積極的な戦略的予算支出を実施してきたことから、販売費及び一般管理費が上昇しました。

以上により、当第2四半期累計期間の業績は、増収・減益となりました。

中期経営計画と資本業務提携

現在、当社は「次期飛躍に向けた安定成長確立の時期」と位置づけた第3次中期経営計画(平成24年7月期～平成26年7月期)を推進中です。計画策定に際して、今後、従来の事業領域で大幅な業績拡大を遂げていくことは困難であると認識し、「事業領域のさらなる拡大」を基本戦略に定めました。そこでは、新分野と海外市場の開拓が大きなテーマとなります。

当計画では、①世界に信頼される包装機メーカー ②「なんとかしたい」にトップスピードで応えるトータルプランナー ③「創造と挑戦」のものづくり企業、の3点を中期経営ビジョンに掲げ、計画最終年度における「売上高4,400百万円」「営業利益245百万円」「経常利益250百万円」「当期純利益150百万円」の達成を目指しています。これらの数値目標については、今後の事業環境と業績動向を踏まえ、修正要否を検討していく予定ですが、安定的な業績を確保した上で戦略投資を増加させ、特に

新分野と海外市場の開拓を重要課題としていく方針に変更はありません。

その一環として当社は、平成24年1月にコンピュータ周辺機器メーカーである株式会社ワイ・イー・データとの資本業務提携を締結しました。これにより、ワイ・イー・データは当社発行済株式総数の15.01% (1,350,000株) を保有する第2位株主となりました。

この提携を通じて、当社とワイ・イー・データは、お互いの技術・ノウハウ、事業インフラ・ネットワークを最大限に活用していくことが可能となります。当社は、ワイ・イー・データグループが有するメカトロクス分野の技術・製造ノウハウや海外拠点等のインフラやネットワークを活かし、新規顧客や新たな市場の開拓、新機種の開発・拡販、アジアを中心とする海外販売の強化を進めていきます。

(中期経営計画と資本業務提携については、p5もご参照ください。)

TOPICS

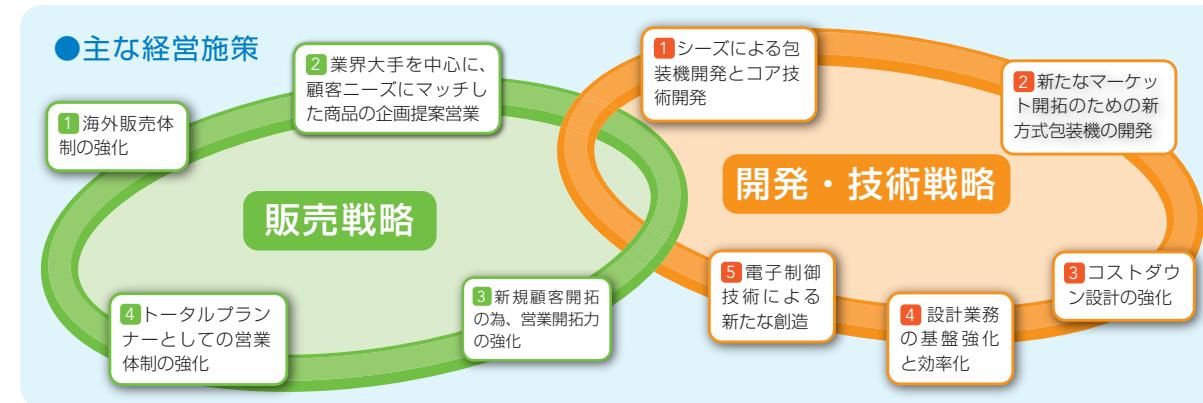
環境配慮の新製品[ナイス]登場

多品種小ロット生産、省エネルギーなど時代のニーズに応えた最新機種としてGP-9S [ナイス] を販売開始しました。包装機関連の大規模展示会 JAPANPACK2011 では、粉末充填機との連動実演で来場者に PR しました。

■ 9つの特長

清掃性 シンプル構造で清掃性向上	安全性 安全カバー標準装備	環境性 省エネ設計 (従来機比 30% カット)
機能性 多彩なオプション取付可能	操作性 液晶タッチパネルで簡単操作	型替性 工具レスで簡単サイズチェンジ
デザイン性 コンパクト設計できれいな外観	コンパクト性 コンパクトなボディで高い性能	メンテナンス性 万一のトラブルも画面表示

JAPANPACK2011での展示の様子



今後の販売戦略と開発・技術戦略

下半期については、国内需要が従来の想定よりも減少するものと予測し、また、上半期までの業績動向を踏まえ、期初の計画値を下方修正しました。通期の業績は、売上高3,800百万円(前期比3.5%減)、営業利益56百万円(同75.1%減)、経常利益60百万円(同74.2%減)、当期純利益30百万円(同78.4%減)を予想しています。

業績回復に向けた販売戦略として、今後、展示会出展とインターネット上のPR展開を中心とする積極的な広告宣伝・販促活動により、見込み客数の増加を図っていきます。同時に、新分野からの引き合いへの対応をスピードアップします。海外マーケットについては、昨年10月に設置した海外営業部を中心に、販売チャネルの強化に取り組み、特に東南アジアの窓口に対する販売支援の継続や、ペットフード向け大型案件の受注活動に注力していく考えです。これにより、下半期以降は、タイ・台湾・インドネシア・インド等をターゲットとする受注の拡大を見込んでいます。

開発・技術面では、上半期の研究開発費78百万円と同水準の投資を下半期も維持します。当期は過去最高とな

る4件の新規開発(うち既存分野向け2件、新規分野向け2件)を計画しています。

株主の皆様にお伝えしたいこと

当社は、安定配当の維持により、株主の皆様のご支援に報いることを利益還元の基本方針としています。前述の通り、当期は大幅な減益となる見通しですが、今回の中間配当は当方針に基づいて前年同水準を維持し、1株当たり3円50銭とさせていただきます。また、期末配当につきましても同額を予定しています。

中期的には、配当性向50%またはDOE(純資産配当率)2%を目安とする配当水準を堅持しつつ、業績の向上に努め、皆様への利益還元をさらに拡充できるよう努力いたします。

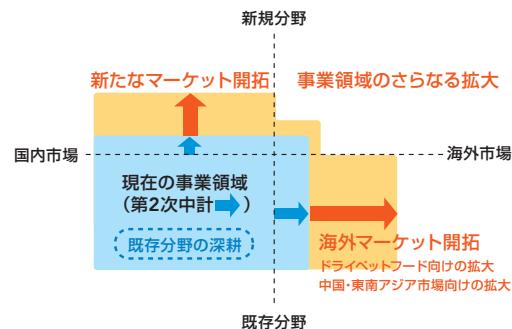
そして、中期経営計画の推進を通じて、安定した成長基盤を築き上げ、将来にわたる持続的な発展に向けて飛躍してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第3次中期経営計画を策定しました。

当社は、昨年9月に平成24年7月期から平成26年7月期までを対象とする「第3次中期経営計画」を策定しました。この3年間で「次期飛躍に向けた安定成長確立の時期」と位置づけて、事業領域を拡大するための各施策の強化に取り組み、業績の向上を目指してまいります。

基本戦略「持続的成長に向けて事業領域のさらなる拡大を目指す」



基本戦略

- 1 顧客ニーズの積極的吸収と独創的な商品開発を推進し、ドライ分野のロータリー式自動包装機国内シェアNo.1を維持する
- 2 安定的に海外市場向けの売上高比率15%以上の体制を目指す
- 3 包装システムのトータルプランナーとしての提案力強化を図る
- 4 事業領域拡大のための商品開発を強化する
- 5 顧客が安心して生産活動できる包装機とサービスを提供する
- 6 事業・技術提携も視野に入れながら、事業領域の拡大を推進する

株式会社ワイ・イー・データと資本業務提携しました。

当社は、株式会社ワイ・イー・データとの間で、資本業務提携を行うことを決定いたしました。本資本業務提携により新規顧客や新たなマーケットの開拓、新機種の開発・拡販、アジア向けを中心とした海外販売の強化等、安定的な業績を確保しながら事業領域のさらなる拡大を図ってまいります。

株式会社ワイ・イー・データ 会社概要

商号	株式会社ワイ・イー・データ
設立	1973年(昭和48年)9月21日
資本金	50億円
発行済株式総数	19,730千株
株主数	2,518名
従業員	197名(連結)
売上高	連結55億29百万円 単独47億28百万円(2010年度実績)
上場金融商品取引所	東京(東証第2部:証券コード6950) (2011年3月現在)

業務提携内容

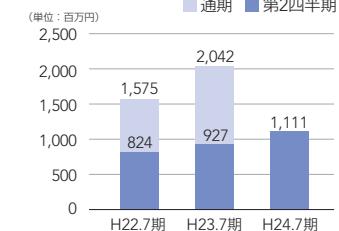
- 1 当社製品の海外販売におけるワイ・イー・データグループのリソースの活用、相互協力
- 2 当社のノウハウを活用した包装システム事業分野における装置・自動機等の開発・販売
- 3 ワイ・イー・データグループによる当社の製品開発への支援
- 4 当社の包装システム事業分野のノウハウのワイ・イー・データグループへの提供
- 5 包装システム事業分野における相互の営業協力、情報交換
- 6 人事交流

給袋自動包装機(ガス充填自動包装機含む)

売上高 **1,111**百万円 前年同期比19.8%増



給袋自動包装機は、販売台数が増加したことから、売上高は1,111百万円(前年同期比19.8%増)となりました。

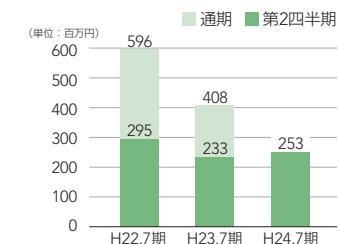


製袋自動包装機

売上高 **253**百万円 前年同期比8.3%増



製袋自動包装機は、販売台数が増加したことから、売上高は253百万円(前年同期比8.3%増)となりました。

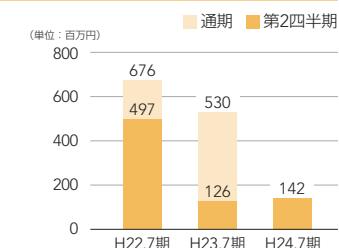


包装関連機器等

売上高 **142**百万円 前年同期比12.4%増



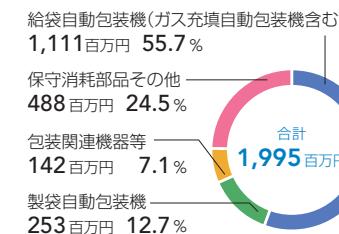
包装関連機器等は、包装機器の実績が増加したことから、売上高は142百万円(前年同期比12.4%増)となりました。



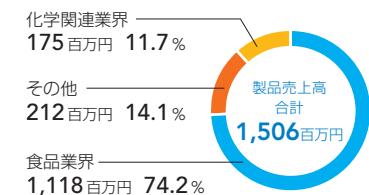
機械受注高

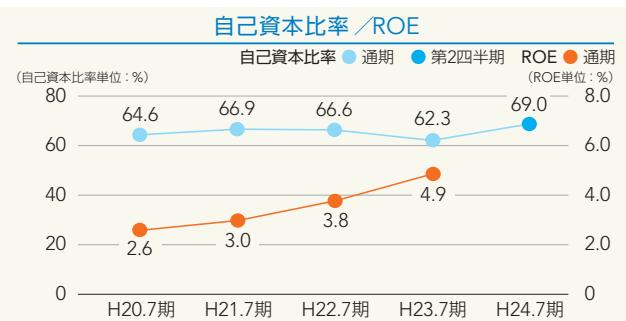
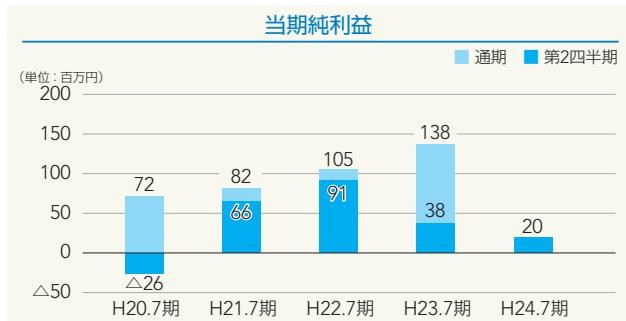
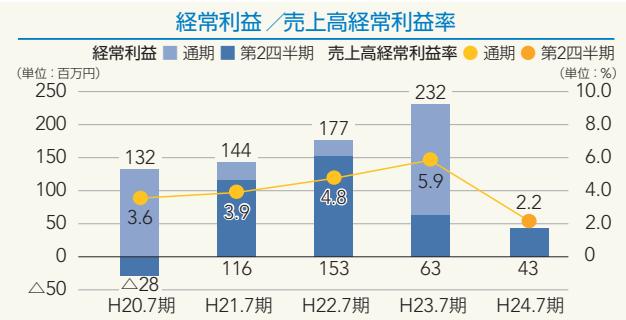
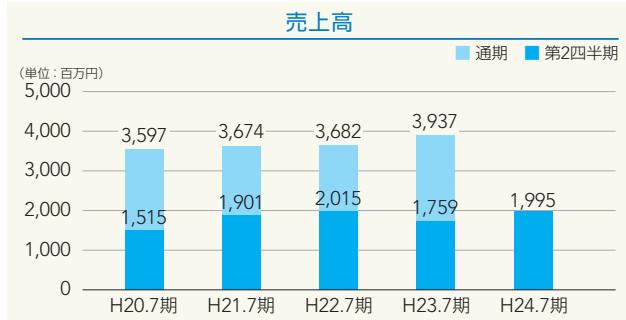


品目別売上高



最終ユーザー業界別売上高





経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響で停滞していた企業の生産活動が回復しつつあった一方で、欧米諸国の財政問題を背景とした円高の長期化や、タイで発生した洪水の影響によるサプライチェーンの混乱等により、景気は依然として厳しい状況で推移いたしました。

包装機械業界におきましては、顧客企業の設備投資需要に改善が見られるとともに、輸出が増加するなど、緩やかな回復傾向で推移いたしました。

このような状況のなか、当社は積極的な広告宣伝・販売促進活動を推進し、新規顧客と新たなマーケットの開拓、新機種の拡販、海外販売の強化に取り組んでまいりました。

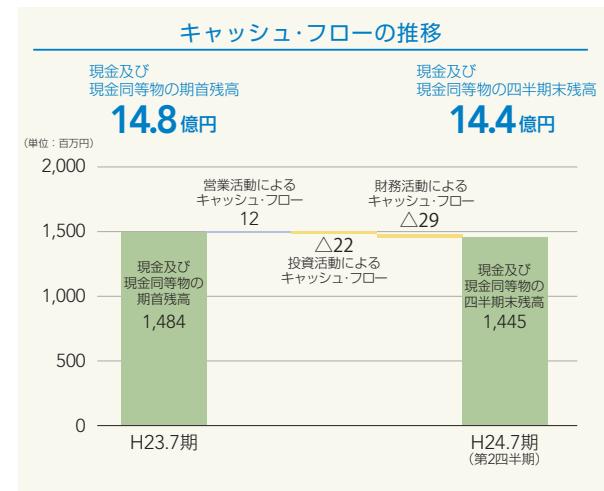
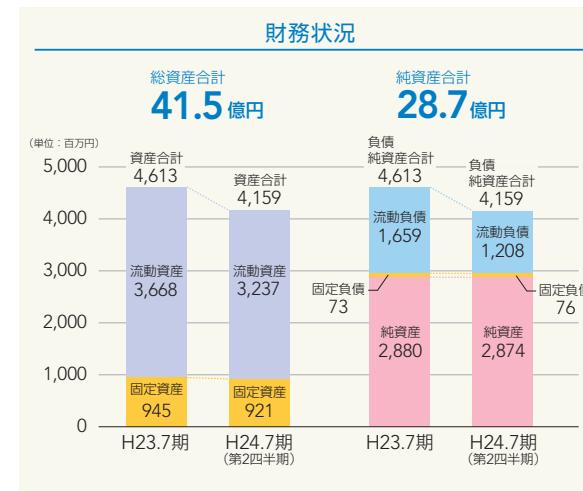
当第2四半期累計期間における売上高につきましては、中小型案件の需要の回復により、販売台数が増加し

たことから、前年同期に対し236百万円の増収となりました。

一方、受注高につきましては、受注件数は増加したものの、高価格機種の受注実績が減少したことから、前年同期を下回りました。

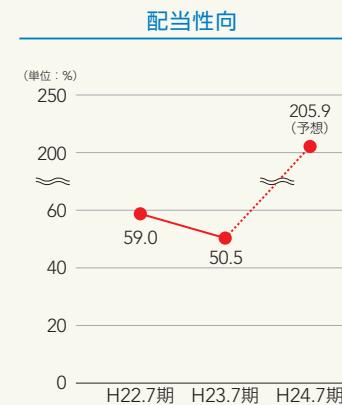
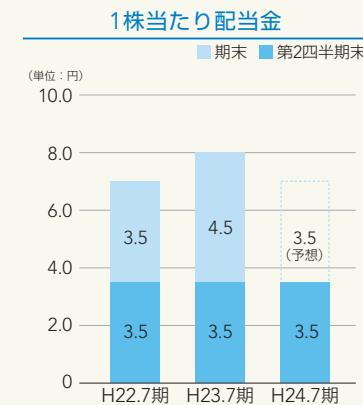
収益面につきましては、売上高の増加に伴い、売上総利益も前年同期を上回りました。一方で、販売費及び一般管理費は、大型展示会費用の発生や研究開発費の増加等に伴い前年同期より大幅に増加したことから、営業利益及び経常利益につきましては、前年同期より減益となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は1,995百万円(前年同期比13.4%増)、営業利益40百万円(前年同期比31.3%減)、経常利益43百万円(前年同期比32.0%減)、四半期純利益20百万円(前年同期比45.2%減)となりました。



株主還元方針

株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、配当性向 50%または純資産配当率 (DOE)2% を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を目指しています。



第3回 ダブル輸液バッグ用包装機

安全・確実なパッケージングで、 医療現場に貢献。



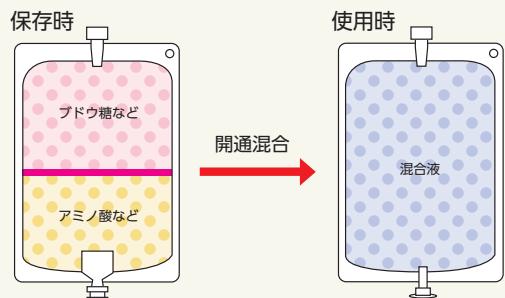
医療の安全性を高めたダブル輸液バッグ

輸液とは、水分や電解質などを点滴静脈注射で投与する治療法です。患者が必要とする輸液剤を投与するための輸液バッグは従来、医療現場で調剤・封入を行っており、万が一の事故を引き起こす可能性がありました。

そこで登場したのが、ダブル輸液バッグ。混合すべき輸液剤を2層に分けて封入することで保存性を高め、施術時にバッグを手で圧迫するだけで2つの液を混合できます。現場の作業負担を軽減し、医療事故を防止する優れた製品として、多くの医療機関で用いられるようになりました。

一方、ダブル輸液バッグを製造する大手薬品メーカーの課題は、製品出荷時の梱包。外気に触れないように、バリア性のある袋に不活性ガスとともに包装できる、安全性の高い機械を求めていました。

ダブル輸液バッグの仕組み



アミノ酸とブドウ糖をわけておくことで、保存性を高める。

中央の隔壁部を破り混ぜ合わせて使用。

輸液バッグ用包装機を開発

2つに折り曲げた輸液バッグを袋に入れる際、上から落下させて封入すると、衝撃で輸液剤が混合してしまうことがあり、品質劣化の原因となります。包装機の開発依頼を受けた当社は、トレーに載せたお菓子を袋詰めする技術を応用し、串状のガイドの上に輸液バッグを載せ、それを袋の中にスライドさせる横入れ方式を導入。さらに、輸液バッグの挿入姿勢の検査機能を備え、不活性ガスの充填とそのチェック工程を加えることで、求められていたラインが完成しました。

この他にも当社は、シングル輸液バッグやシリンジ、錠剤、粉体薬品などの自動包装機を開発。安全で確実なパッケージング技術を提供し、医療現場に貢献しています。

輸液バッグ用包装機 納品実績

	製品容量	包装能力	納入台数
シングルバッグ (GP2000シリーズ)	50~500ml	Max55袋/分 (3,300袋/時)	3台
ダブルバッグ (GP-HV8型)	上・下室合計 Max 2.5L	Max25袋/分 (1,600袋/時)	8台

GP-HV8型の2台はトータル包装システムとして納品し、総額5億円以上と当社過去最高金額の売上となりました。

■ 会社概要 (平成24年1月31日現在)

商号	ゼネラルパッカー株式会社
英文社名	GENERAL PACKER CO., LTD.
設立	昭和41年2月(創業 昭和36年12月)
資本金	2億5,157万7千円
事業内容	各種自動包装機・荷造用機械及び周辺装置の製造・販売・修理、それに附帯する一切の業務
従業員数	118名
本社・工場	〒481-8601 愛知県北名古屋市長久寺宇福寺 神明65番地 Tel.(0568)23-3111(代) Fax.(0568)22-3222
東京営業部	〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町 三丁目5番地8 神田木原ビル4F Tel.(03)3256-3891(代) Fax.(03)3256-3893



■ 取締役及び監査役 (平成24年1月31日現在)

代表取締役社長	梅森輝信	
常務取締役	小関幸太郎	管理部長
取締役	工藤誠一	生産部長 兼 資材部担当
取締役	鈴木完繁	営業本部長
取締役	池田勇次	技術部担当
取締役	牧野研二	開発部長
常勤監査役	余川善明	
監査役	村橋泰志	
監査役	浅井一郎	

■ 株式の状況 (平成24年1月31日現在)

発行可能株式総数	28,000,000 株
発行済株式総数	8,994,000 株
株主数	929 名

■ 大株主 (平成24年1月31日現在)

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
ゼネラルパッカー従業員持株会	1,379,000	15.57
株式会社ワイ・イー・データ	1,350,000	15.25
原 淳	601,000	6.78
株式会社りそな銀行	392,000	4.42
高野 季久美	364,000	4.11
田中 かな	364,000	4.11
ゼネラルパッカー取引先持株会	350,000	3.95
島末 孝法	196,000	2.21
梅森 輝信	182,000	2.05
滑 達彦	140,000	1.58

株主数構成比



個人・その他	898名	96.65%
その他法人	18名	1.94%
証券会社	9名	0.97%
金融機関	3名	0.33%
自己名義	1名	0.11%

株式数構成比



個人・その他	6,767,948株	75.24%
その他法人	1,513,400株	16.83%
金融機関	500,000株	5.56%
自己名義	134,670株	1.50%
証券会社	77,982株	0.87%

株主メモ

事業年度	8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	10月
基準日	定時株主総会 7月31日 期末配当金 7月31日 中間配当金 1月31日 その他あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目7番20号 日本証券代行株式会社 名古屋支店 Tel. (052)261-1781(代)
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
公告掲載URL	http://www.general-packer.co.jp/

各種手続きのお申出先

- 未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- 住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等証券保管振替機構（ほふり）をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。
- 証券保管振替機構（ほふり）をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。

ホームページをご活用ください。

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。

今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。



<http://www.general-packer.co.jp/>

日興アイ・アール(株)の「2011年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」で新興市場ランキング最優秀サイトに選ばれました。

企業ホームページ
最優秀サイト

日興アイ・アール
新興市場ランキング

名古屋証券取引所市場第二部に上場しました

当社は、株式会社名古屋証券取引所より、当社株式の名古屋証券取引所市場第二部への上場承認を頂きましたので、ここにお知らせいたします。これもひとえに、株主の皆様をはじめ、関係者の皆様の温かいご支援・ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

今後も皆様方のご期待にお応えすべく、業務の拡大と企業価値の向上を目指す所存でございますので、引き続き変わらぬご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

包装システムのトータルプランナー ゼネラルパッカー株式会社

- 本社・工場
〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地
Tel. (0568)23-3111(代) Fax. (0568)22-3222
- 東京営業部
〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F
Tel. (03)3256-3891(代) Fax. (03)3256-3893

